

平成30年度 各調査結果等を活用した学力保障の取り組み事例

事務所名	沿岸南部	学校名	陸前高田市立気仙小学校	TEL	0192-55-2932
------	------	-----	-------------	-----	--------------

教育課程の工夫と家庭との連携による学力向上の取組

【今年度の目標】

- ・平成30年度 岩手県学習定着度状況調査正答率を、県比105%以上にする。
- ・児童質問紙の「振り返り」についての質問で、「そう思う」と答える児童を80%以上に増やす。

【組織的な対応を図る上で工夫した点】

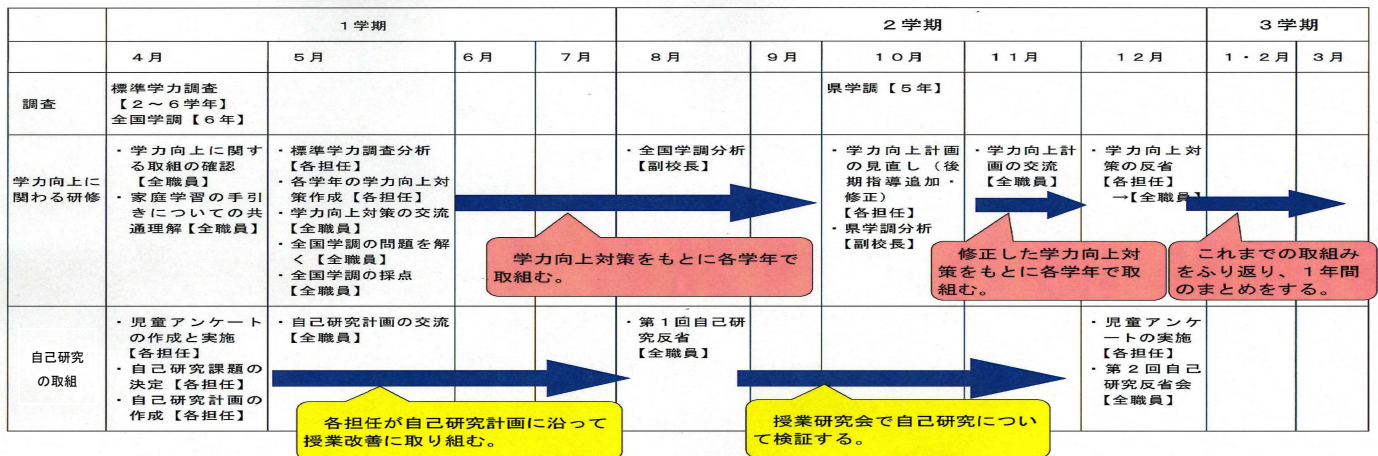
- 1 RPDCAサイクルの確立
- 2 時間を保障する教育課程の工夫
- 3 家庭・中学校と連携した取組
- 4 授業力向上の取組

【具体的な取組】

1 RPDCAサイクルの確立

年度初めに「標準学力調査」を2~6学年で実施し、学力調査分析による実態把握（R）から、各学年毎の実態に応じた学力向上対策の立案（P）を行う。その後、計画に沿った実践（D）を積み重ね、年度途中には学力向上計画の見直しをし（C）、児童の力を伸ばすことができるよう実践（A）してきた。具体的な取組は、校内学力向上対策会議等で共通理解を図り、有効な手立てがとれるようにしてきた。

【資料1】RPDCAを意識した組織的な取組の流れ



(1) 学力向上計画の作成

4月に実施される標準学力調査を各担任が採点し、結果を分析する。その際正答率70パーセント以下の問題を抽出し分析する。それをもとに対策を設定し全職員で交流する。10月にはこれまでの取り組みや児童の実態を踏まえ、改善策を立て、全職員で交流する。

このように、全職員で交流することで、担任外が学年の課題を把握した状態で各学年の指導に加わることができた。また、11月にこれまでの実践を振り返ることで、自分の学年の児童に付けたい力が身に付いたのかを見つめなおすことができた。そして、1年の折り返しの時期に学力向上対策を修正することで、より児童の実態に合わせた取組につなげることができた。

(2) 全国学調の問題理解

今年度も全国学調のB問題(国語・算数)を全職員で解いた自分で解くことで、どのような力を児童に付ける必要があるのかを確認することができた。また、全職員で分担し児童の解答用紙を採点した。そのことにより、実際に児童がつまづいた問題を把握し、本校児童の課題をつかむことができた。

平成30年度 学力向上対策(算数)

3年

番号	問題の内容	正答率	考察
3	数直線のめもりの表す数を答える。	44%	一目盛りの大きさをおさえずに答えている。
8	かける数が1増えると積はいくつ増えるかを答える。	56%	九九の答えを書いたり、隣の1と同じ答えを書いたりしている。
12(2)	紙パックに入った牛乳のかさかさにふさわしい単位を選ぶ。	56%	イメージを持たないままdLやしを選んだりする。
14	一番高い塔を選ぶ。	56%	単位が違ふものの単位をそろえて比べていない。
19(2)	120円で買えるおかしを全て選ぶ。	44%	120円以内のもの全てを選ぶのに、120円ぴったりになるものだけを選んでいる。

児童名	正答率	考察
	46%	題意を正しく理解できない、文章問題の理解が難しい。
	70%	題意を正しく理解できない、解くのに時間がかかる。

学級の課題	対応策(5月)	改善策(11月)
直感をもてない。	具体物や実物を見せるなどしてイメージを持たせる。	長さの単元において直感を持たせる活動を多く取り入れることができた。その他の単元でも引き続き行う。
数直線のめもりを正確に読めない。	一目盛りの大きさをおさえてから読む習慣をつける。自分で数直線を書くことに慣れる。	「大きな数」の単元で一目盛りを確認して数直線を読んだり書いたりする練習ができた。引き続き行う。
聞かれていることに答えていない。	何を聞かれているかをおさえることを習慣づける。答えの単位に気を付けさせる。	赤線・青線を使って、題意を捉え単位をおさえる活動を継続して行っていく。
活用問題における条件の見落としがある。	問題の意図をよく読んで理解したり、条件を見落とさずおさえたりできるように、活用問題に取り組ませる。	1学期末に取り組んだがやはり弱い部分が見えるので今後も取り組ませている。

【資料2】学力向上対策(算数)

2 時間を保障する教育課程の工夫

学力向上の時間を保障するために、本校では週時程を工夫している。

(1) チャレンジテスト

月に1度、朝学習の時間を利用して計算と漢字のテストを交互に行っている。事前に問題の範囲等を知らせ、90点を目標に設定している。目標点を下回った児童は目標点が達成できるまで、テストを繰り返す。テストの点数は保護者にカードで知らせ、コメントの記入をお願いし、連携を図っている。

(2) ちょこっとタイム

基礎的な内容の定着を目指し、全学年で実施。担任外の教師も含め、職員2名で指導に当たっている。

(3) ぐんぐんタイム

身に付いた力を活用して、課題を解決する力の育成を目的としている。主に活用問題にチャレンジする時間ととらえ4～6学年で実施している。担任外の教師も含め、各学年とも職員2名が指導に当たっており個別の指導も行っている。問題の内容・準備等課題もあるが、こつこつ積み重ねることが児童の学力向上につながっている。

月曜設定のため時間の確保が難しく、昨年度は年間10回程度しか実施できなかった。そこで、今年度から【ミニぐんぐんタイム】の導入を加え、時間を確保できるようにした。

	月	火	水	木	金
下校時間	朝学習 学年ごとの課題	全校朝会 児童朝会 全校集会	朝学習 漢字 チャレンジテスト	朝読書	朝学習 計算
朝の会	8:15	8:15	8:15	8:15	8:15
1校時	8:45	8:45	8:45	8:45	8:45
2校時	9:15	9:15	9:15	9:15	9:15
すくすくタイム	10:00	10:00	10:00	10:00	10:00
中休み	10:20	10:20	10:20	10:20	10:20
3校時	10:40	10:40	10:40	10:40	10:40
4校時	11:30	11:30	11:30	11:30	11:30
給食	12:15	12:15	12:15	12:15	12:15
昼休み	13:00	13:00	13:00	13:00	13:00
清掃	13:35	13:35	13:35	13:35	13:35
5校時	13:55	13:55	13:55	13:55	13:55
帰りの会	14:40~14:50	14:40~14:50	14:40~14:50	14:40~14:50	14:40~14:50
ちょこっとタイム				14:30~14:50	
6校時	(月曜日) 委員会・ぐんぐん 14:55~15:40 ミニぐんぐん 14:55~15:15 ミニ委員会	(火・水曜日) 6校時・授業 14:55~15:30			(金曜日) クラブ 14:55~15:55
帰りの会					
下校時間	4月 11日				4月 16日

【チャレンジテスト】
・全学年で実施。
・年間10回実施。(1か月に1回実施)
8月・3月は除く。
・漢字・計算各5回

【ちょこっとタイム】
・全学年で実施。
・20分間。(清掃カット)

【ぐんぐんタイム】
・4～6学年で実施。
・ぐんぐんタイム45分間、

3 家庭・中学校と連携した取組

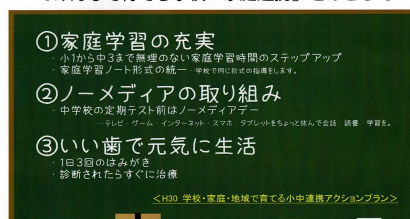
家庭と連携した取組の実際

月	家庭との連携		中学校との連携 (☆小小連携)
	学力向上【知】	その他【徳】【体】	
4月	チャレンジテスト(計算)		教務主任研・研究主任研での確認・情報交換
5月	チャレンジテスト(漢字) 【知・徳・体】学校・家庭・地域で育てる小中連携アクションプランの配付(家庭での掲示)		
6月	家庭学習パワーアップ週間① チャレンジテスト(計算)	【徳】ありがとう大作戦(お手伝い週間)	
7月		・学びフェスタアンケート 【体】元気・体カアップ60運動の取組	小中交流会 ・授業参観 ・情報交換
8月	チャレンジテスト(漢字)		
9月	チャレンジテスト(計算) 家庭学習パワーアップ週間②		
10月	チャレンジテスト(漢字)		高田小学校公開への参加
11月	チャレンジテスト(計算) 家庭学習パワーアップ週間③	【徳】ありがとう大作戦(お手伝い週間)	6年生授業体験(高田第一中)
12月	チャレンジテスト(漢字)	・学びフェスタアンケート	☆小小連携会議
1月	チャレンジテスト(計算)		
2月	チャレンジテスト(漢字) 家庭学習パワーアップ週間④	元気・体カアップ60運動の取組【体】	中学校入学説明会
3月			小中引継ぎ会

本校では、左の表の通り知・徳・体のバランスを考えながら家庭と連携した取組を行っている。保護者は協力的であるので、成果につながっている。

【高田第一中学校 小中連携 保護者の声】 2名の方より1週間ご報告を頂戴いたします。

～『みんなで育てる学校・家庭連携』をめざして～



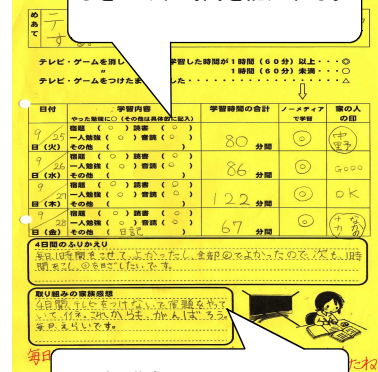
(1) 中学校との連携

本校児童は卒業後、陸前高田市立高田第一中学校へ入学する。高田第一中学校へは市内5校の小学校卒業生が入学する。そこで、小学校5校と中学校が足並みをそろえることができるよう、「学校・家庭・地域で育てる小中連携アクションプラン」を作成し、各家庭へ配付している。

(2) 家庭学習パワーアップ週間について

中学校のテスト期間と合わせて取組期間を設定。ノーメディアと家庭学習時間60分以上を目標にしている。カードに学習内容(宿題・音読・一人勉強・読書・その他)と学習時間を明記することで、家庭学習の定着を図ってきた。

内容で当てはまるものにするをつけ、時間を記入する。



保護者からのコメント

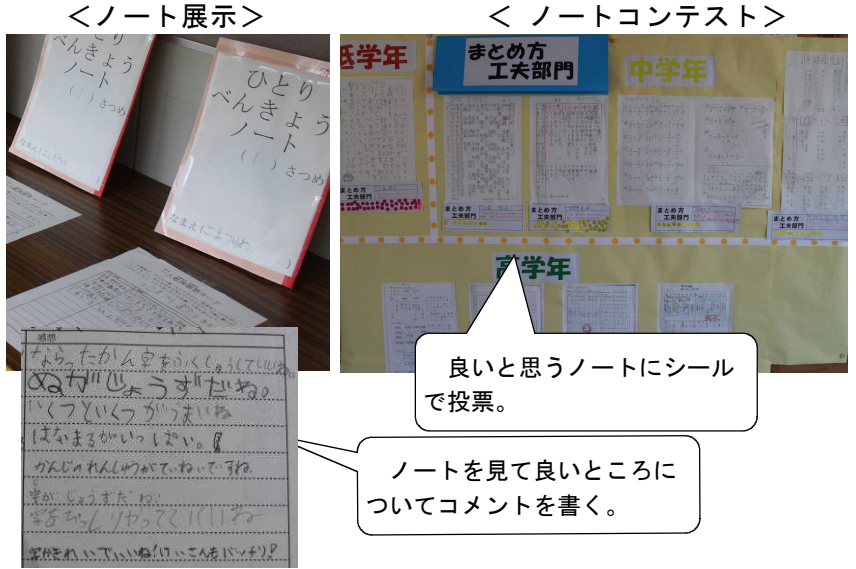
取り組みの家族感想

今回のパワーアップ期間は、集中して行う事が出来た様に感じ、この期間に集中して取り組む事で、学習の定着が図れた様に感じています。

(3) ノート展示

家庭学習パワーアップ週間1回目から3回目までは、全員のノートを各学年の廊下に展示している。また、ノートと一緒にコメント用紙を置き、児童が自由にコメントを記入している。職員は分担してコメントを記入。そして、コメント用紙を家庭学習ノートに貼ることで、児童の意欲につなげている。

4回目は、ノートコンテストを行っている。「びっしり部門」「ていねい部門」等4つの部門に児童一人一人が自分で選んでエントリーし、シールで投票。目標が明確になり、児童は工夫しながら学習することができた。また、互いのノートと比較しながら見ることができ、良い刺激となっている。



4 授業力向上の取組

(1) 自己研究計画の立案

平成28年度より、自己研究に取り組んでいる。次の手順で計画を立案し、授業実践を行っている。

- ①各担任が児童の実態や教師自身の課題等も踏まえ、教科を決定する。
- ②標準学力調査の結果や児童アンケートの結果をもとにめざす子ども像を設定する。
- ③本校の研究の視点である「展開段階の学び合いの在り方」「終末段階での振り返りの在り方」「学びの深化が自覚できるノート・シートの工夫」の3つについて「達成された姿」と「手立て」を決める。
- ④1学期末・2学期末・授業研終了後に授業について評価し、授業改善につなげる。

学年の実態をもとに目指す子ども像を設定。学級経営の視点も加味して決定している。

(4) 年担任 誰 誰ののか

自分の考えを持ち、友だちの考えを聞きながら学びを深めたいことができる子ども

1 児童の実態や教師自身の課題等も踏まえ、教科を決定する。また、自分の研究の視点である「展開段階の学び合いの在り方」「終末段階での振り返りの在り方」「学びの深化が自覚できるノート・シートの工夫」の3つについて「達成された姿」と「手立て」を決める。

2 児童をもとにした学級で達成されたときの姿

①展開段階での学び合いの在り方(より難関の考えを友人から学びたい)

手立て
 ・自分の考えを述べることが出来る。
 ・自分の考えを述べながら友達の考えを聞きながら学ぶことが出来る。
 ・自分の考えを述べながら友達の考えを聞きながら学ぶことが出来る。

②終末段階での振り返りの在り方(振り返りを通して自分の学びを振り返りたい)

手立て
 ・振り返りを通して、自分の学びを振り返ることが出来る。
 ・振り返りを通して、自分の学びを振り返ることが出来る。
 ・振り返りを通して、自分の学びを振り返ることが出来る。

③学びの深化が自覚できるノート・シートの工夫(振り返りを通して、自分の学びを振り返りたい)

手立て
 ・自分の考えを述べながら友達の考えを聞きながら学ぶことが出来る。
 ・自分の考えを述べながら友達の考えを聞きながら学ぶことが出来る。
 ・自分の考えを述べながら友達の考えを聞きながら学ぶことが出来る。

3つの研究の視点に沿って手立て、成果、課題を記入し、自己の課題と向き合っていく。

学年	研究の視点	手立て	成果	課題
小学年	展開段階での学び合いの在り方	自分の考えを述べることが出来る。	自分の考えを述べながら友達の考えを聞きながら学ぶことが出来る。	自分の考えを述べながら友達の考えを聞きながら学ぶことが出来る。
小学年	終末段階での振り返りの在り方	振り返りを通して、自分の学びを振り返ることが出来る。	振り返りを通して、自分の学びを振り返ることが出来る。	振り返りを通して、自分の学びを振り返ることが出来る。
小学年	学びの深化が自覚できるノート・シートの工夫	自分の考えを述べながら友達の考えを聞きながら学ぶことが出来る。	自分の考えを述べながら友達の考えを聞きながら学ぶことが出来る。	自分の考えを述べながら友達の考えを聞きながら学ぶことが出来る。

(2) 調査結果をもとにした授業改善の取組 (3学年: 算数)

3年担任は今年度算数科の授業改善に取り組んでいる。4月に実施した標準学力調査では、牛乳のかさにふさわしい単位を選ぶ問題や一番長い長さを選ぶ問題など、「測定」領域の正答率が低かった。つまり、量感を持つことや単位のおさえることなどが課題として挙げられた。

そこで、様々な単位を使う経験や既習を生かして自分の考えを持てるように促し、その考えをもとに、それぞれの根拠を聞き合いながら重さの見当をつけるための学び合いができるように授業を組み立てた。

研究授業では、児童が意欲を持ち続けられるような課題やシート・環境を工夫した。児童は楽しみながら、見当をつけたり測定したりしながらグループ学習を進めることができた。

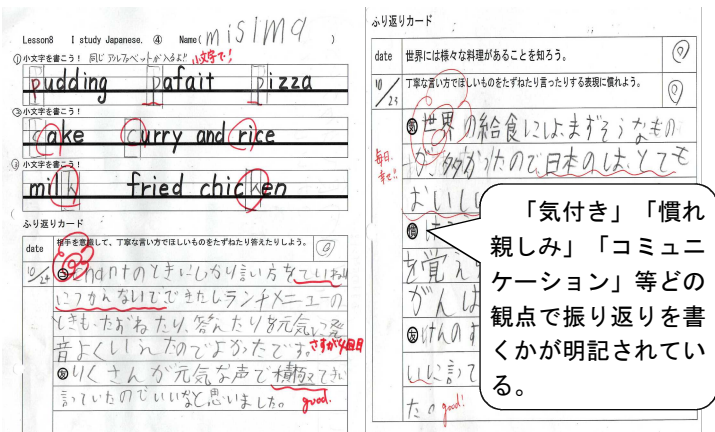


「重さで犯人を見つけろ! ウルトラス Cポリス出動」と単元構成を工夫。

まず、自分で触れたり比べたりして見当をつけている。

児童が意欲的に学習できるような授業環境

- (3) 振り返りシートの工夫（5学年：外国語）
 ゴールへ向けての自分の成長を感じさせたいと考え、写真のようなシートを作成した。授業では、本時のねらいを明確にし、学び合いで分かったこと、気付いたこと等に触れながら振り返りシートに書くよう促した。
 振り返りシートは単元分をまとめて作成し、提示することで児童もゴールを意識することができた。シートには、評価の観点も明記しており、児童はその観点に沿って書くことができるようになった。
 また、書く活動もシートに位置付けている。



(4) 個別の指導目標を設定した授業実践（4学年：算数）

6 個別の目標

児童氏名	課題（レディネステストの結果等）	本単元で付けさせたい力
レディネステストの結果及び普段の授業の様子をもとに課題を立て、単元で付けたい力を設定した。	レディネステスト満点 ・説明が分かりにくい。（考えすぎるため、まわりくどくなる。）	・周りの児童が分かりやすい説明の仕方ができる。←他の児童の反応をもとに説明し直させる。
	レディネステスト5/6正解。問題の意図を読み間違える。 ・少しでもわからなくなるとイライラして、集中できないことがある。	・根拠を明らかにしながら説明する。 ・粘り強く問題に取り組む。 ←見通しを丁寧に言い、鉛筆が止まっているときは教科書等ヒントを与える。
	レディネステスト5/6正解。問題の意図を読み間違える。 ・話の聞き漏らしが多い。 ・集中力が長続きしない。	・自分の考えと他の児童の考えを比較しながら話を聞く。 ←他の児童の話を書く前に視点を与えるとともに、聞いた後反応させる。
	レディネステスト5/6正解。問題の意図を読み間違える。 ・立式の根拠が曖昧なときがある。 ・基本的な計算での間違いが多い。	・根拠を明らかにしながら考え方を説明し、問題を解く際に生かす。 ←一人学びの際に指導で根拠を尋ね、説明に生かせるようにする。

4年生は7名の少人数学級である。そこで、個別の指導を充実させるために指導目標を設定した。個別の指導目標を設定したことで、一人一人に付けたい力を明確に持ち、指導に当たることができた。
 今後、検証方法も計画し、付けたい力がどれくらい付いたのかを客観的に見取ることができるようになりたい。
 また、少人数学級の良さを最大限に生かす指導の工夫がこれからのポイントになると考える。対話的で主体的な学び合いができるよう、鍛えていく必要がある。

【成果】

1 今年度の目標から

- (1) H30岩手県学習定着度状況調査正答率を、県比105%以上にする。

	国語	社会	算数	理科
正答率（本校）	71.7	81.7	76.6	76.3
県比	117.4	115.4	132.0	118.0

・4教科とも県比105%を以上であり、目標を達成することができた。特に算数は県比132%と、正答率が高かった。

- (2) 児童質問紙の「振り返り」について肯定的な捉えの児童を80%以上に増やす。

よく行っている	どちらかといえば行っている	合計
87%	13%	100%

・肯定的に捉えている児童は100%となり目標を達成することができた。

2 具体的な取組から

- ・RPDCAを意識した取組を行うことで、目指す子どもの姿を意識した授業の積み重ねができた。また、児童の実態をふまえて自己研究に取り組んだことで、授業改善につなげることができた。
- ・学力向上の時間を保障し、それぞれの取組を確実にすることが学力向上につながることを確認することができた。また、全職員で共通理解のもと児童一人一人の実態に合わせた声かけを行うことができた。
- ・家庭学習パワーアップ週間を初め様々な取組でカードを活用している。保護者の前向きな励ましのコメントが、児童の励みとなっている。
- ・平成30年度岩手県新入生学習状況調査の生徒質問紙でも、「振り返り」について肯定的な捉えの生徒（本校の卒業生）が80%を越えた。小学校での取組の成果と捉えることができる。

【課題】

- ・6年児童は標準学力調査では、国語・算数ともに全国比110%以上だったが、全国学調の活用的な問題の正答率が低かった。つまり、基礎的な力は身に付けているが、身に付けた力を活用する力がまだ育っていないと言える。これからも学年の課題を克服するための視点を大切に授業改善や「ぐんぐんタイム」の内容の工夫など改善していく必要がある。